

---

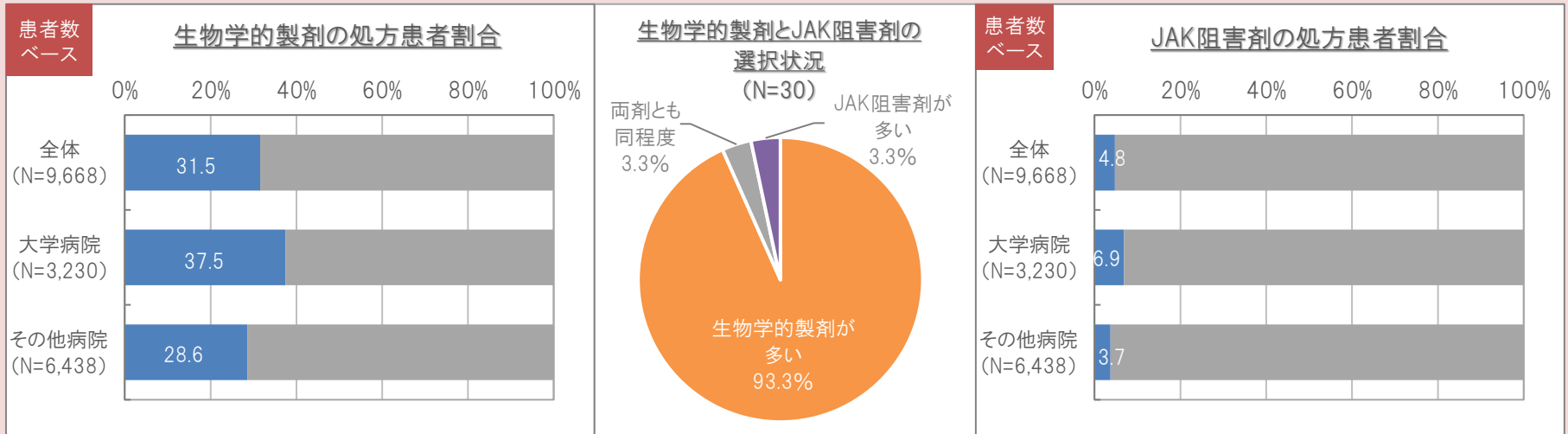
# 『関節リウマチのドクター調査』

—生物学的製剤、JAK阻害剤の処方状況と  
寛解導入/維持における処方実態を探る—

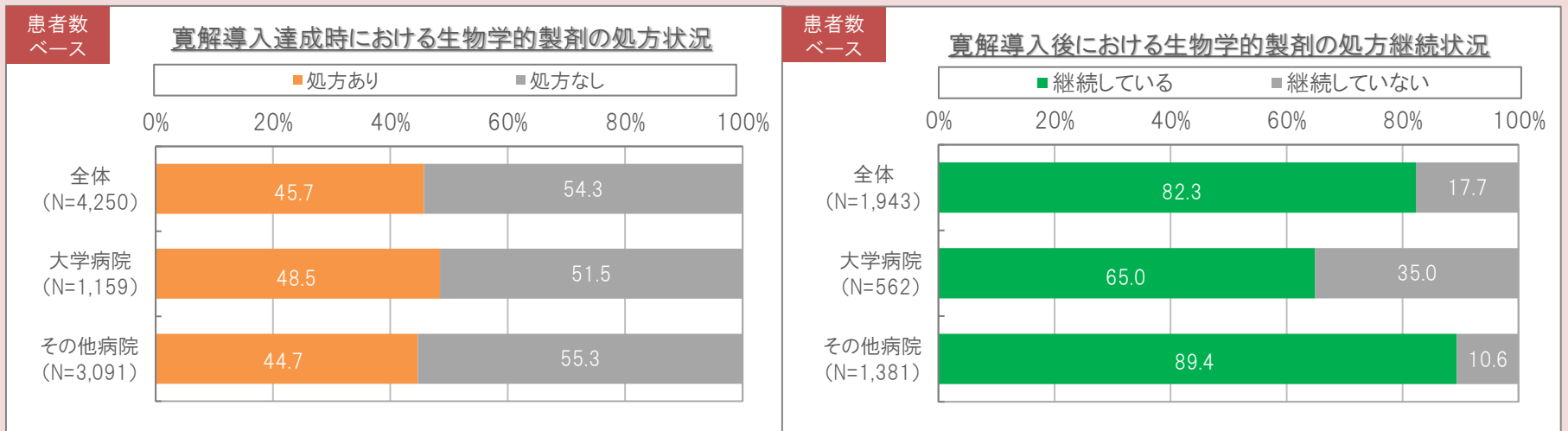
---

【参考data】

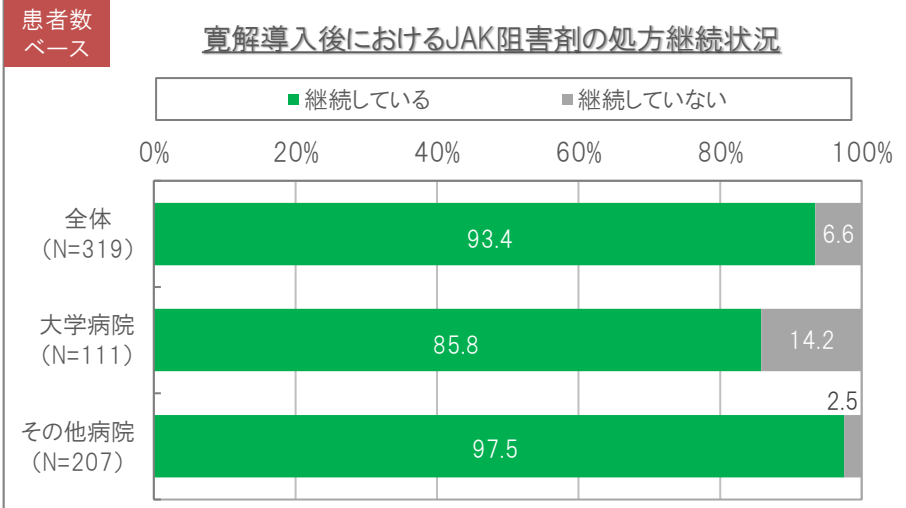
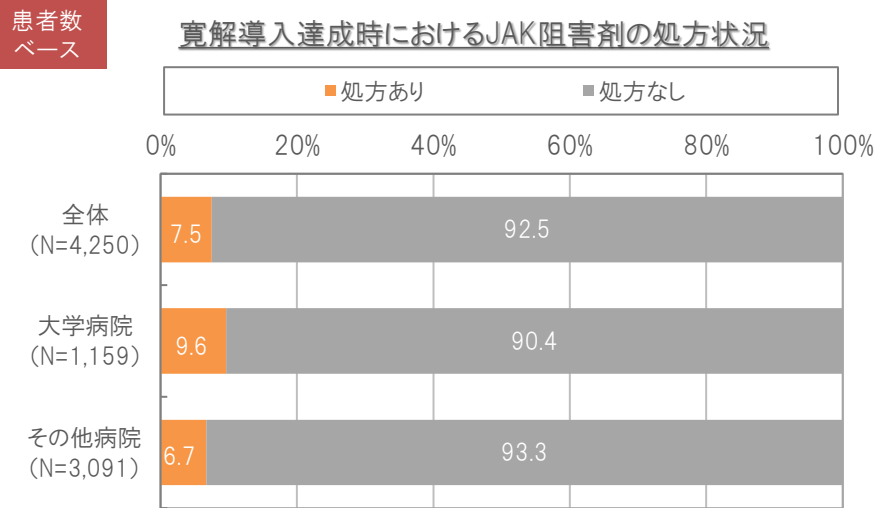
- 生物学的製剤とJAK阻害剤の両方を選択可能な患者に対しては、9割以上のドクターが生物学的製剤を使用。
- 理由としては、生物学的製剤の有効性・安全性の高さや使用経験、JAK阻害剤の安全性dataの不足など。



- 寛解導入達成時に生物学的製剤を処方されていた人は半数近く。
- また、寛解導入後も処方を継続されていた人は8割強。大学病院では3～4割が処方を中止(休薬)している。



- 寛解導入達成時にJAK阻害剤を処方されていた人は1割弱。
- また、寛解導入後も処方を継続されていた人は9割以上。その他病院ではほとんどの患者が処方を継続。



これらデータの外、関節リウマチに関する詳細なデータを多数取り揃えております。  
宜しければ、調査概要および調査票にて、項目をご確認下さいませ。  
ご興味・ご関心をお持ち頂けました際には、レポート全体をご覧頂ければ幸いです。  
ご希望頂けます際には、Microsoft Teamsを活用し、Web(オンライン)上でご案内  
(自由閲覧も可能)させて頂きます。どうかお問合せ下さいませ。